

循環器集中治療の新たな地平を拓く

企画：川上将司

(久留米大学医学部内科学講座 心臓・血管
内科部門/高度救急救命センター CCU)

le hasard ne favorise que les esprits préparés – *Louis Pasteur*

(幸運は用意された心の中に宿る – ルイ・パスツール)

循環器集中治療は、日進月歩の進化を遂げながら、ますます高度で複雑な領域へと展開している。その中でも心原性ショックについては、新しい機械的循環補助デバイスが登場し、診断・治療の精度向上が一層求められるようになり、血行動態モニタリングの役割が再認識されるようになった。また集中治療領域も急速に発展し高度に専門性を高めていく中で、循環器内科医・心臓外科医と救急医・集中治療医との質の高い連携構築が必須となった。循環器集中治療は高度医療を提供できる施設に集約することも重要であり、地域全体で向き合う問題でもある。数十年間、大きく予後を改善できなかったこの領域に対して、ハードの面でもソフトの面でも我々は今ようやく戦う環境が整いつつある。一方で、侵襲度の高い治療には合併症などデメリットも多く、治療対象となる最適な患者像はまだ確立していない。施設や地域で提供される循環器集中治療の質は定まっておらず、循環器集中治療医を育成するための施設や指導者の不足も深刻である。

本号の「HEART's Selection」では、循環器集中治療の最前線に迫り、今後の方向性を探るべく、6つのテーマについて新進気鋭の先生方にご執筆いただいた。中田淳先生、齋藤佑一先生、澤田賢一郎先生、近藤徹先生、柴田龍宏先生、私がそれぞれのテーマについて直接教えを乞いたいと思った、豪華な執筆陣であると自負している。本特集が、循環器集中治療の未来を見据えた議論の一助となることを願い、読者の皆様とともに新たな地平を拓く契機となることを期待している。



HEART's
Selection